

地域住民との交流のため
にと、真庭市下中津井の空
き家を改修して昨年夏にオ
ープンした「インターナシ
ョナルシェアハウス・照ラ

真
庭

ス」にピザ窯が完成した。
5月末には地域住民らを招
いて窯開きする予定で、地
元のまきを使ってピザ作り
に挑戦する。(小原一穂)

外国人らと交流の場

シェアハウスにピザ窯

完成したピザ窯を前に談笑するシェアハウスの住人ら



住民招き月末から使用

窯はアーチ型で台座を除く高さ約50センチ、幅、奥行き各1メートル。シェアハウスで暮らす自転車整備士のフランス人男性、アクセル・ティアランさん(29)や、アクセルさんと親交がある県立大(総社市窪木)の学生ら計8人が6日に丸一日掛けて、土をドーム形に盛った土台に耐火コンクリートを塗り固めて完成させた。約2週間乾燥させた後、土台部分の土を取り除いて仕上げる。窯をたく燃料のまきは、まき燃料を生産する中和地域の一般社団法人アシタカから調達する。

シェアハウスは、真庭市地域おこし協力隊の姜命秀さん(38)が、日本に関心がある外国人らを受け入れ、地域の活性化につながる狙いで、ふるさと納税を活用した資金調達で整備。現在はアクセルさんら2人が共同生活している。

姜さんは「入居者と地域住民の親睦が深まり、地域を盛り上げるきっかけになれば」と話している。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。

2017年5月9日 山陽新聞朝刊 29ページ

山陽新聞社提供